

白鶴美術館 秋季展

揺ら美^{ゆび}

2022年

9/23 (祝・金) 12/11 (日)

休館日

毎週月曜日

但し、10月10日(月)は開館、10月11日(火)を休館

開館時間

午前10時～午後4時30分 (入館は午後4時まで)

入館料

大人:800円／65歳以上・大学・高校生:500円／中学・小学生:250円
(大人および大学・高校・中学・小学生の団体20名以上は2割引き)

公益財団法人
白鶴美術館
HAKUTSURU FINE ART MUSEUM

《お問い合わせ先》
〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手6-1-1
TEL/FAX 078-851-6001

白鶴美術館



<https://www.hakutsuru-museum.org/>
※携帯電話のご利用マナーにご協力ください。



HAKUTSURU SAKE

揺ら美

— 水・風が生み出す表現



- 1.「青銅製博山炉」 中国、後漢時代
- 2.「鍍金龍魚文大銀盤」 中国、唐時代
- 3.重要文化財「金銅小幡」 日本、白鳳時代
- 4.「絨毯」カーシャーン ペルシア中央部、1900年頃

展示紹介

今回の展示は本館・新館ともに同タイトル。揺れる表現を水と風のカテゴリーで所蔵品をみていきます。

「水」の揺ら美：

人びとは水をどのように表してきたのでしょうか。透過する水の性質を、線や色であらわすのは困難です。人びとは様々な表現を駆使しながら水を捉えようとしてきました。その表現には、ひとしずくの水滴の流れを示す雨粒の線や、激流を描く滝の表現など、直線的な要素もみられますが、多くの場合、海・山水の広大な風景に描かれる水流のように、波としての表現が多いようです。今回は、そうした波立つ水を中心に、様々な美術・工芸にみられる表現やその技法をみていきたいと思います。

「風」の揺ら美：

「風の揺らぎ」をテーマとする展示では、空を飛翔する雲や天人、香煙などによって特色づけられる金工品や経巻の優美な世界を紹介します。このテーマは、重要文化財「金銅小幡」に象徴されます。はためいて仏堂を荘厳した本作では、たなびく天衣を纏って宙を舞う飛天、伸びやかに波打つ唐草文、そしてそれらを形作る流麗な描線の全てが一体となって、揺らぎの美が放たれています。これらの作品は、古来人々が憧れてきた障碍(しょうげ)のない清らかな場へと導いてくれます。

講演会

日時：11月6日(日) 午後2時～3時30分
テーマ：「風を表現する-金銅小幡と金銅垂飾をめぐる-」
講師：大阪市立美術館館長 内藤 栄 氏

新館レクチャー

日時：11月20日(日) 午後2時～3時30分
テーマ：「トルコ文様にみられる揺らぎ」
講師：元龍谷大学教授・国際トルコ美術史学会常任理事
ヤマンラール 水野 美奈子 氏

文化財特別ワークショップ

日時：10月8日(土) 午後1時～4時15分
テーマ：「金工の伝統技法を知る」
講師：株式会社森本鋳金具製作所
鋳師・代表取締役 森本 安之助 氏

大学生ワークショップ

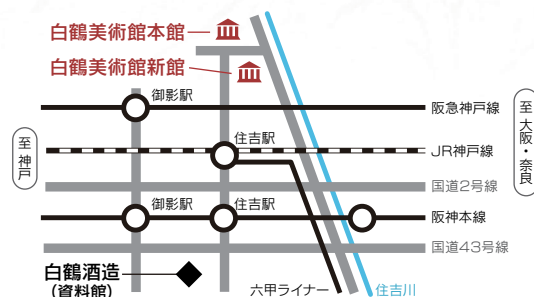
日時：11月13日、20日、27日、12月4日の各日曜日
午後1時30分～3時30分
テーマ：「大学生による金工ワークショップ
—揺ら美工房」
指導員：甲南大学学生ワークショップ指導員

アート・トーク

日時：12月11日(日) 午後2時～3時30分
テーマ：「水・風の生み出す造形表現」
講師：当館学芸員

スライド解説

日時：9月24日、10月22日、11月26日、12月3日の
各土曜日 午後2時～3時
テーマ：「展示品のみどころ」
講師：当館学芸員



公共交通機関でお越しの場合

- ・阪神本線「御影駅」、JR神戸線「住吉駅」から市バス38系統 渦森台行き「白鶴美術館前」下車
- ・阪急神戸線「御影駅」から北東約1km(徒歩15分)

お車でお越しの場合

- ・阪神高速道路3号神戸線 大阪方面「魚崎出口」から約1.5km
 - ・阪神高速道路3号神戸線 姫路/明石方面「摩耶出口」から約6km
- ※無料駐車場あり(大型バス可)

- ▶ 団体でのご来館の際には、事前にお電話にてご確認ください。
- ▶ イベントは要入館料、定員40名。状況に応じて中止する場合があります。

次回春季展は
2023年3月4日(土)から開催予定です

公益財団法人
白鶴美術館
HAKUTSURU FINE ART MUSEUM

《お問い合わせ先》
〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手6丁目1-1
TEL/FAX: 078-851-6001